

理学博士伊藤貞市の「珪酸塩結晶構造の研究」に対する授賞審査要旨

二四

此の研究は、昭和六年以來十数年に亘つて行はれたもので、研究の中心は珪酸塩結晶構造の闡明にあつたが、それと關聯して結晶の同質多像と超顕微鏡的微小双晶との關係の解明に進み、更に單斜晶系に屬するソーダ長石の存在を確認する等、學術的興味の極めて多彩なものである。

要するに著者の研究は、珪酸塩結晶構造の中無機結晶構造の最も複雑なものとして、未解決に残されたもののうち、五種類について解析に成功し、新しき教箇の構造型を發見すると共に、結晶の双晶的構造による同質多像の存在を實驗的に証明し、双晶的同質多像に三種の構造の類別あることを、適切なる且つ独得なる研究方法を用ゐて明かにしたのである。又これに關聯して行つた月長石の研究に於ても、従來推定に留まつた單斜ソーダ長石の存在を確證し得たのである。そしてこの研究に、これまで主として結晶構造の決定にのみ使用されたX線的方法を、一種の超顕微鏡として使用した事は、分子の大きさと肉眼的又は顕微鏡的大きさの中間の大きさの鑛物の微細構造の究明の道を開拓したものである。